

骨髄細胞で血管再生

心臓の治療に応用

高齢化や食生活の欧米化で、日本でも動脈硬化による狭心症や心筋梗塞(こうそく)患者が増えている。薬物治療やバイパス手術でも症状の改善が期待できない重症患者に昨年、朗報が届いた。松本市の信州大学医学部付属病院の先端心臓血管病センターが行った心臓の血管再生治療がそれだ。人間の骨髄には血管に分化する幹細胞が含まれている。センターはこの不思議な細胞に着目し、重い狭心症で胸部に不快感があった県内の男性患者の治療に利用した。昨春秋、まず本人の骨髄細胞を採取した後、心臓に注射して移植した。すると心臓の表面を覆う血管が再生して貧弱だった血流が改善された。男性は胸が圧迫されるような症状はなくなり無事に退院した。現在は日常生活に支障はないという。

この治療はもともと、動脈硬化などで手

狭心症の男性 元気に

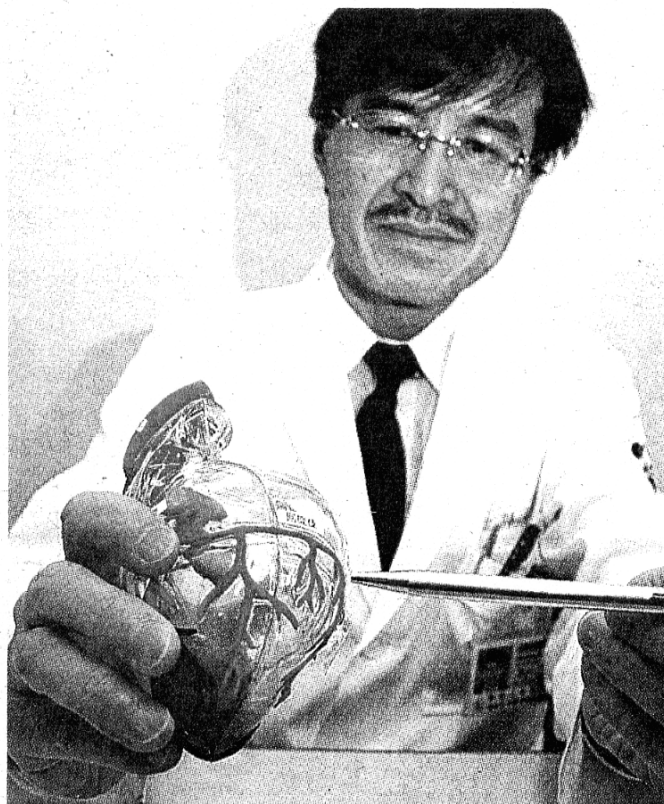
信大付属病院 先端心臓血管病センター

足の痛みで苦しむ患者の治療に役立てられ、効果が実証済みだった。今回はこれを心臓に応用したわけだ。

血管再生に効果的な「CD34陽性細胞」のみを、骨髄細胞から分離して移植を行う国内二例目の手術だった。CD34陽性細胞の分離・回収には、磁気を利用して効率的に作業を進められる国内初の手法を採用した。

センター長の池田宇一・循環器内科教授は「再生治療は問い合わせが多いが、従来の治療で対処できるケースもある。『最終手段』として本当に求める患者に絞って実施していきたい」と話す。

センターでは次の段階として、肉体的な負担を減らすために、手術で胸を開かないでも骨髄細胞を心臓に移植できる方法の確立を目指している。



池田センター長がペンで指す場所に骨髄細胞を移植し血流を改善させた